中央公民館だより

平成 28 年８月１日発行
三原市中央公民館
三原市円一町２丁目３番１号
TEL 0848-64-2137　FAX 64-0137

8.7「未来へ届けよう平和の歌声」
必見!!関連企画展開催中

８月７日の平和イベント『未来へ届けよう平和の歌声』に関連して，中央公民館ロビーでは，７月７日より次のようにミニ企画展を開催しています。当日のイベントもさることながら，関係市民の方より貴重な資料をお借りしていますので，お近くにお越しの際には，是非お運びください。展示期限は８月７日（日）までの予定です。

展示Ⅰ『シベリア回想絵画展』（古谷巌さんの戦争体験に基づく絵画作品展示）

魂の慟哭に耳を傾けずにはいられない…そんな絵を描く画家が市内に在住です。
「描く」と言うより「記憶をキャンバスに刻み込む」と言うべきかもしれません。
古谷巌さん 90 歳。戦後，シベリアで抑留生活を経験された方です。
本格的な描画活動は 60 歳を越えてから―。シベリア体験を描写したスケッチブックを当館で指導されていた村上厚雄先生に見ていただいたところ，油絵を勧められたとのこと。それからというもの，先生に手ほどきを受けながら，溜め込んでいたものが堰を切って流れるように描画されました。
各所で個展を開かれ，作品数は現在 107 点。その内，今回は 11 点を展示しています。

展示Ⅱ『遺品が語る戦争の記憶』（戦地からの手紙による平木ヨシヱさんの記憶）

24 歳の若さで夫の戦死の悲報を受け取られた平木ヨシヱさん。20 歳で勝さんと結婚され，昭和 19 年１月に娘さんを出産。幸せもつかの間，同年７月には勝さんが出征されることになりました。勝さんがフィリピンにおられるのは，戦地からの手紙で知られたとのこと。
戦争という極限の境地にありながら，なおも家族への気づかいで埋め尽くされた文面。読み返す度に，家族を引き離した戦争の不条理を憤らずにはいられません。
70 数年前に戦地から宛てられた手紙を，ヨシヱさんは，今も大切に心の拠りどころとされています。是非ご一読ください。

展示Ⅲ『折鶴　～平和祈念の象徴～』（道原伸二さんの折鶴再生紙開発の取組み）

企業の社会貢献が注目を集めるようになりました。
そんな中，市内でもいち早く環境問題に取り組んでこられたのが道原伸二さん。
年々累積する広島市の折鶴の保管問題を聞き及び，ご自身のお母様が佐々木禎子さんの同級生ということもあって，平和への祈りを無にしない再利用を思いつかれました。折紙を和紙に漉き込んで名刺やはがきにする再生紙の製造です。
積極果敢なパイオニア…実物や再生紙誕生のエピソードを展示で紹介しています。これも見逃せません。

８月の体験講座

講座名	開催日時	対象	参加費	持参物	定員	申込期間
サマー親子お話映画館Ⅱ	８月 22 日(月) 13:30～14:40	親子	無料	なし	なし	なし
「レッツ・トライ!スペイン料理」 炊飯器 de パエリア	８月 23 日(火) 10:00～13:00	大人	1,400 円	米１合，エプロン，三角巾，手拭タオル，ふきん	24 名	８月１日 ～８月 16 日

原田　浩　元広島平和記念資料館長　三原初講演　～オバマ大統領の広島訪問に関連して～

去る７月 15 日，尾三地区社会教育委員連絡協議会主催による『尾三地区社会教育関係団体合同研修会』が当館中講堂で開かれました。

講師としてお招きしたのは，原田　浩さん。元広島平和記念資料館長であるとともに，ご自身も６歳の時被爆。『平和行政のあゆみ』と題して，約１時間半，被爆体験も交え，館長在任中の執務経験を活かした貴重な講話をいただきました。

内容は，原爆投下の概要から被爆の実相，悲願であった原爆ドームの世界遺産登録，苦悩の米国，国立スミソニアン航空宇宙博物館での被爆資料の特別展示計画，その場を感動の渦に巻き込んだ国際司法裁判所での陳述，さらには，時宜を得たオバマ大統領の広島訪問の舞台裏にも及びました。

最後に，「広島の原点は被爆体験。そのことに目を閉ざしてはいけない。また，原爆投下の是非の検証なくして，平和の実現はありえない。」ときっぱり結ばれたのが印象的でした。実体験や施策の実務経験から紡ぎ出された数々の言葉の重みを感じずにはいられませんでした。

（本講演の映像は，８月６日(土)7:30～8:45，ＲＣＣ平和記念式典中継の中で放映予定。）

編集後記

★「明日の神話」：岡本太郎氏が制作した，縦 5.5m 横 30mの原爆をモチーフとする巨大壁画を視て来ました。JR 渋谷駅連絡通路に設置されています。広島，大阪も誘致希望しましたが，「多くの人の目に触れる場所」ということで東京に設置されました。この壁画のことを知ったのは，故岡本敏子氏の講演を聞きに行ったのがきっかけでした。壁画は某メキシコのホテルからの発注で 1969 年メキシコで制作されましたがホテル側の経営破綻により，行方がわからなくなっていました。2003 年メキシコの資材置き場で発見され，糸井重里団長等率いる再生プロジェクトにより，2005 年に日本に帰ってきて，再生処理をされ現在の場所に恒久設置されました。

★「おりづるタワー」：三分一博志氏設計にて７月 11 日にプレオープンしました。早速行ってきました。外気からの風と路面電車の行きかう雑踏を感じつつゆるやかなスパイラルスロープを歩いて最上階まで上がります。そこには，廃墟と化した広島の街や産業，市民球団が復興し現代に至る様子がアートや写真で描かれています。最上階にはなだらかなウッドの「ひろしまの丘」が出現し，眼下に平和公園，原爆ドーム，旧市民球場，原爆で消失し復元した毛利家の居城広島城，科学館のプラネタリウム，プールではしゃぐ子ども達，グリーンアリーナなどが 360 度見渡せる設計になっており，原田先生の講演を聞いた後というのもあり，感じいるものが涙となりました。この地でしか伝えられない「哀しみ」この地でしか感じられない「希望」というコンセプトを充分感じ，私たちがこれから未来へ伝えていくことが見えたように思います。８月７日「未来へ届けよう平和の歌声」に是非ご参加くださり，一緒に平和を考えるきっかけにしましょう。たくさんのご来場をお待ちしております。

お問い合わせ・ご相談は，三原市中央公民館(TEL0848-64-2137　FAX64-0137）生涯学習相談員　中山・村上まで